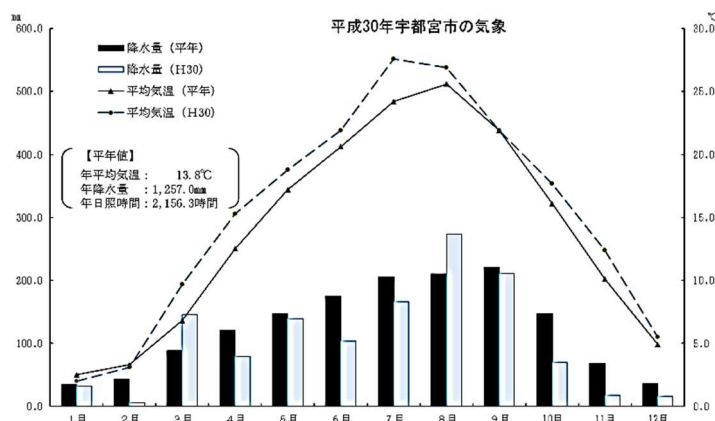


# I 河内地方の概要

## 1 位置・地勢・気象

河内地方は県の中央部に位置し、県都宇都宮市と上三川町の1市1町からなり、総面積は47,137haで県全体の7.35%を占めています。標高は概ね50~180mであり、県北西部には古賀志山地・宇都宮丘陵が分布しています。東部に鬼怒川、中央部に田川、西部に姿川が流れ、それぞれの流域の低地を中心に沖積層の水田地帯が、その間の台地には畑地帯が形成されています。



## 2 農業の特徴

このような位置・地勢のもと、北関東随一の人口約52万人の大消費地である県都・宇都宮市を含む当地方では、就農相談件数が増加傾向にあり、Uターンや新規参入等による新規就農者が園芸部門を中心に安定して確保されるなど、農業のさらなる成長が期待されています。

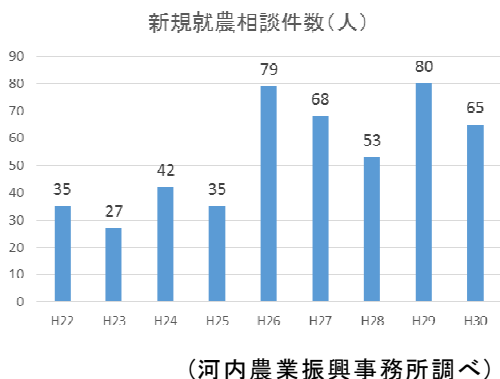
特に、京浜市場等へのアクセスも良く、いちご・トマト・なしをはじめ、にら・アスパラガス等の施設野菜の生産が拡大し、米麦を中心に野菜、果樹、花き、畜産などが複合した都市近郊農業が展開されています。また、近年では、集落営農の組織化及び経営体の法人化や、土地利用型によるたまねぎ・にんじん・さつまいも等の露地野菜の導入が進んでいます。

さらには、管内の直売所の年間利用者数や年間販売額の合計が年々増える等、農業と観光の連携による地域の活性化が期待されています。

管内における販売額の多い農産物

品目	販売額(億円)
水稲	47.1
いちご	28.5
なし	12.2
トマト	11.2
肉用牛	8.9
生乳	4.6

※市町計 河内農業振興事務所調べ



管内直売所の年間利用者数及び販売額

